

今回9月16日から10月4日まで、スカラ座オペラアカデミーでの3週間の研修を経験して、劇場で歌うということ、日本人としてヨーロッパの伝統芸能を職業にしていく事に関して様々な事を考えさせられました。私はイタリアの地に立つのは今回が初めてであり、とても緊張していましたが、現地で出会った方々は私の拙いイタリア語から何とか私の伝えたい事を汲み取って下さり、改めて他人への感謝を感じる事が出来ました。

アカデミーでのプログラムは、歌唱、発音、演技など、オペラ歌手にとって大切な様々な要素が組み込まれており、充実した日々を過ごすことが出来たと思っています。歌唱に関しては、レパートリー構築の再確認や今後の方針や取り組み方、自分の能力の再確認など、日頃、日本での研修で言われている以上の指導を受けることが出来ました。発音に関しては、ネイティブの発音を専門にしているコーチから指導を受け、苦手意識を持っていたイタリア語に関して自信を持つことが出来、帰国した現在でも、発音に関しての問題が解消された傾向が主観から感じ取ることが出来ています。演技に関しては、オペラ劇場という広い空間の中でいかに共演者や観客にどのような演技をしているか認識してもらうこと、舞台人としての自分の中から自然に生まれ出る表現を立体化していくか、という事を改めて考えさせられました。また、アカデミーの現地研修生のレッスンを聞く機会もあり、学んでいる場所、出生地は違えども指導を受ける箇所、能力等はさほど変わりはないのだと感じました。研修中に、2つのオペラを実際に劇場で観劇する機会があり、公演は勿論の事、スカラ座の歴史の説明や舞台裏を案内してもらい、日頃、資料などで目にする以上の現場の雰囲気を感じることが出来ました。現地での成果発表会では、スカラ座の歴史ある博物館の中で「椿姫」のアルフレードのアリアと「愛の妙薬」の二重唱を歌い、3週間で学んだ事を今までの経験と織り交ぜながら、作曲者であるヴェルディとドニゼッティをはじめ、スカラ座でこれらの役を演じてきた様々な歌手達の歴史を感じながら歌うことが出来たと思います。また、成果発表会で高校時代の友人とも10年以上ぶりの再会を果たすことができ、昔話に華を咲かせつつ、また同じ舞台で共演者としての再会を約束することが出来ました。

この様な充実した経験が出来たのもANAスカラシップと劇場の協力があっての事であり、自分が日頃恵まれている環境にいるのだと再認識することが出来ました。今回の研修で得た成果をもとに、これからの研修で更に舞台人として磨きをかけられるよう努力したいと思います。